

## 初心者コーナー

## 海外インフラビジネスの課題(6)

## 1. はじめに

APECインフラ開発・投資に係るキャパシティ・ビルディングセミナーが経済産業省主催で8月初めに東京の三田共用会議所で開かれました。このセミナーの開催は、2013年のAPEC首脳宣言で、インフラプロジェクトの調達時に、調達価格だけではなく「インフラの質」が重要であり、これを踏まえたインフラプロジェクトを計画する政府能力の向上が確認されたことに拠ります。筆者は、このセミナーは投資事業を推進することに焦点が置かれたプログラムでしたが、「インフラの質」を確保する観点から「インフラ開発及び投資に関する民間企業の実績データベース」と題して、当センターのコリンズとテクリスについてプレゼンテーションをする機会を得ましたので、その際に、気付いた点を述べたいと思います。

## 2. プレゼンの概要と参加者

筆者のプレゼンは70分が与えられ、14の国と地域から26名の参加がありました。セミナーが主としてPPPに主眼を置いて企画されたため、参加者は殆んど各国・地域のPPP担当者でした。

筆者のプレゼンの構成は、以下のようなものです。

- ① 世界銀行のコンサルタント・データベース(DACON)
- ② コリンズ・テクリスの歴史及びスキーム
- ③ コリンズ・テクリスの登録データの内容と量
- ④ コリンズ・テクリスのサービス内容と料金
- ⑤ コリンズ・テクリスの利用例
- ⑥ 国土交通省の評価点の付け方
- ⑦ コリンズ・テクリスのAPEC地域への適用可能性

プレゼンの後に約15分の質疑応答がありましたが、10人を超える参加者から質問や意見陳述がありました。

その中で興味深い質問をご紹介します。

- ①南米のエネルギー関係のPPPを担当されている複数の参加者から、コリンズ・テクリスがインフラ整備する上で実績のある建設会社やコンサルタントを選定することに役立ち、インフラの品質確保に重要であることは理解できたが、自国では道路などの基本的なインフラの整備及び維持管理もPPPで行われており、請負の工事や業務の実績ではなく、PPPを担う投資家やSPCな

どのデータベースが必要ではないかと考えるが、どう考えるのかとの質問がありました。

筆者は、①PPP全体を担う企業や投資家のデータベースも重要ですが、事業を担当するSPCが選定する建設会社やコンサルタントの実績を確認するためには、コリンズ・テクリスのシステムが必要、②PPPの投資家やSPCのマネージャー経験者の国際的なデータベースは商業ベースで既にあるが、PPPの投資家などを評価する立場でのデータベースが必要となるであろうと回答しました。

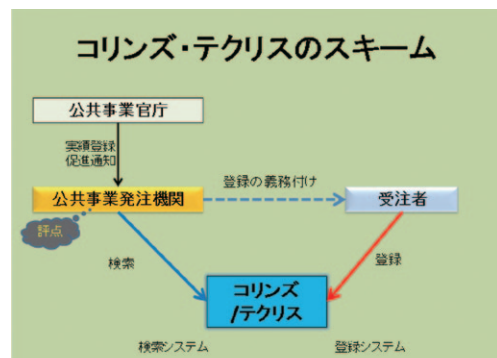


図2 コリンズ・テクリスのスキーム

- ②東南アジアからの複数の参加者から、自国には既に同様の実績登録・検索システムがあるが、どのようにPPPに利用すれば良いのか指導してくれないかとのご要請がありました。

筆者からは、基本的にコリンズ・テクリスの活用方法と同様ですので、JACICとしてご要請があれば、日本政府とご相談の上で前向きに対応したいとお答えしました。

- ③さらに、複数の参加者からAPEC加盟の国・地域全体を対象としたコリンズ・テクリスを構築するためにはどうすれば良いのかと質問がありました。

筆者からは、アイデアとして、①まずAPEC加盟の国・地域で情報交換する実績データの内容を決め、②そのデータを登録するシステムを構築、③相互の検索する条件などを規定して、相互利用するようにすることで可能ではないかと回答しました。なお、JACICとしても、ご要請があれば、積極的に参画したいことも申し添えました。

## 3. おわりに

今回のAPECセミナーでお話をする機会を得て、南米各国では、世界銀行の強い指導力の下、基幹的なインフラの整備が主としてPPPで実施されており、PPP実施者のデータベースの需要が存在することを知り得たことは大きな収穫でした。また、今後、南米でのPPPの普及が、東南アジアや南アジアに展開していくことを確信することができました。

(審議役 海外支援室長 藤森祥弘)

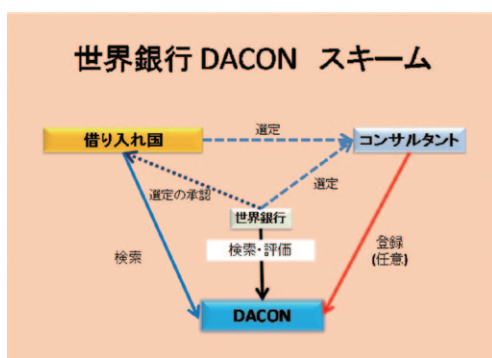


図1 世界銀行DACON スキーム